



○ 2学期始業式講話「3C」

足摺岬に立つ中浜万次郎像→

7月に高知市で開催された中四国地区PTA大会に参加しました。「夢を叶えるジョンマン・スピリット ～はじめて世界を見た日本人ジョン万次郎～」と題した講演会もありました。土佐の漁師であった中浜万次郎は、嵐に遭って無人島に漂着。アメリカの捕鯨船に救助され、船長の好意より日本人として初めてアメリカに渡り、幕末期に帰国。幕府の外交官として活躍し、土佐出身者では坂本龍馬や板垣退助、三菱の創業者である岩崎弥太郎などに多大な影響を与えたと言われる人物です。私も何度か大学時代に足摺岬に立つ銅像を見て思いを巡らせた覚えがあります。演題にあるジョンマン・スピリットとは「あきらめない、投げ出さない、人の役に立つ」であり、とにかく一步を踏み出すこと、挑戦することが大事であると話されました。



1学期始業式講話で「3C、チャンス（Chance）をしっかりキャッチ（Catch）して、チャレンジ（challenge）につなげてください。」という話をしました。今回の講演でも3Cの話がありました。ジョンマン・スピリットを持って自らの未来を切り拓いて行くためには「3C、Chance、Change、Challenge が大事である。つまり、Chanceチャンスを逃さず、Change変わることを恐れず、Challenge チャレンジすることが大事」と話されました。その精神に基づく姿勢と行動力がジョン万次郎を漁師から幕末を動かす人物にしたのだと思います。救助した捕鯨船の船長ホイットフィールドが、未知の日本人であるジョン万次郎を全身全霊で支えたのも、彼の精神ジョンマン・スピリットに魅力されたからだと思います。

講演講師の方は、まずは3D言葉を使わないことが大事であるとも言われました。3D言葉とは「でも・だって・だけど、だめかも、だるい」。何かに取り組む前から言い訳や逃げ道を考えるのではなく、Chanceチャンスを逃さず、Change変わることを恐れず、チャレンジChallenge をすることが大事なのです。

彼がアメリカで過ごした家は、取り壊しを免れ、今はホイットフィールド・万次郎友好記念館となっています。この記念館開設発起人委員会の委員長が「いのちの授業」で有名な日野原重明先生でした。

先生は105歳で亡くなるまで生涯現役の内科医として診療にあたられただけでなく、100歳を過ぎても年間100回以上の講演や小学校で「いのちの授業」をされました。多くの本も執筆されました。

～命はどこにありますか？ 心臓ではありません。心臓は大切な臓器だけど血液を送るポンプで命ではありません。命は感じるもので、目には見えません。目に見えないもので大切なものはたくさんあります。空気、酸素、愛情、思いやり・・・本当に大切なものは目に見えません。命は君たちが持っている時間です。死んだら自分で使える時間もなくなってしまう。一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかり考えながら生きてほしい。その命を自分以外の何かのために使うことを学んでほしい。～

これがいのちの授業で話されていたことです。ジョン万次郎のように、自分の命、与えられた時間を大切に使っているか、2学期の初めにあたり、あらためて考え、充実した2学期につなげてください。